

平成28年度

市政モニターアンケート調査結果

【 長崎市の農業について 】



長 崎 市
農 業 振 興 課

1. 調査の目的

長崎市では、平成 24 年に「農業振興計画（計画期間：平成 24～32 年度）」を策定し、今年度、前期の取り組みを検証し、今後の計画を策定しています。

今回は、市民の皆さまの、長崎市の農業者・農産物に対する認知度や意識を調査し、農業振興計画や今後の事業の検討材料として、有効活用させていただきます。

2. 調査の概要

調査期間：平成 28 年 8 月 22 日 ～ 平成 28 年 9 月 5 日

送付数：214 人（郵送モニター 174 人 インターネットモニター 40 人）

回答率：78%（167 人）

（郵送モニター 149 人 インターネットモニター 18 人）

3. 調査結果

回答者のほとんどが非農家と思われ、消費者としての回答が大多数を占めていました。

中でも、一般の方々が最も農業に期待することは、安全・安心な農産物を安定して供給できる機能であり、行政に対しても、その機能を維持できるようサポートする姿勢が求められているということを再確認いたしました。

また、農業のことについて「あまり知らない」という回答が多かった一方で、機会があったら、「農業を体験してみたい・携わってみたい」という意見も多く、今後の農業を広めていく、発展させていく行政にとって、希望のある結果となりました。

今後とも、市民の皆さまに、農業を身近に感じていただくとともに、安全な農産物の安定供給を維持するための施策を展開していきたいと思えます。

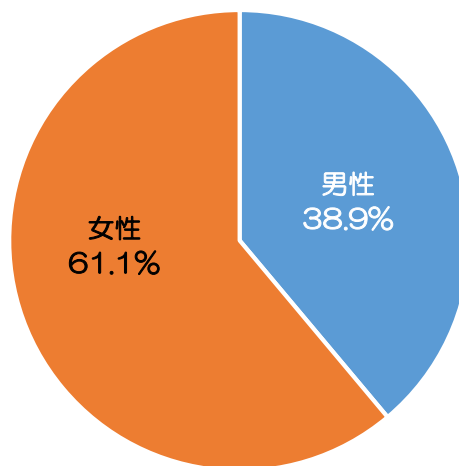
4. 調査結果の見方

調査結果の数字は、百分率で表記しているものがあり、百分率の値は、小数点以下第 2 位を四捨五入して、小数点第 1 位まで表記しています。そのため、内訳を合計しても 100%に合致しない場合があります。

また、複数回答可とした設問においては、合計が 100%を上回る場合があります。

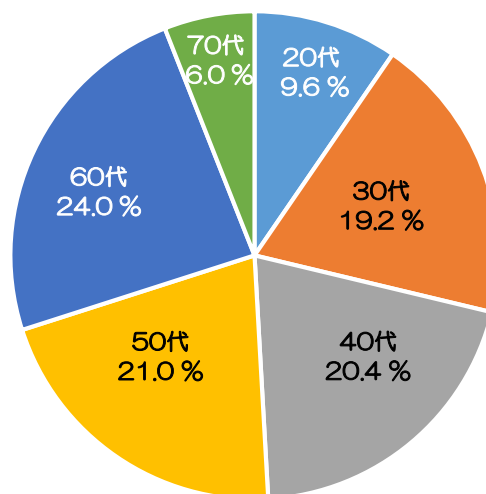
問1 あなたの性別をお答えください。

選択肢	回答者数	割合
男性	65人	38.9%
女性	102人	61.1%
合計	167人	100.0%



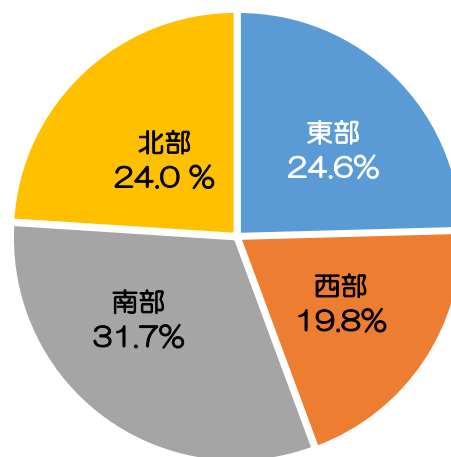
問2 あなたの年齢を選択して下さい。

選択肢	回答者数	割合
20代	16人	9.6%
30代	32人	19.2%
40代	34人	20.4%
50代	35人	21.0%
60代	40人	24.0%
70代	10人	6.0%
合計	167人	100.0%



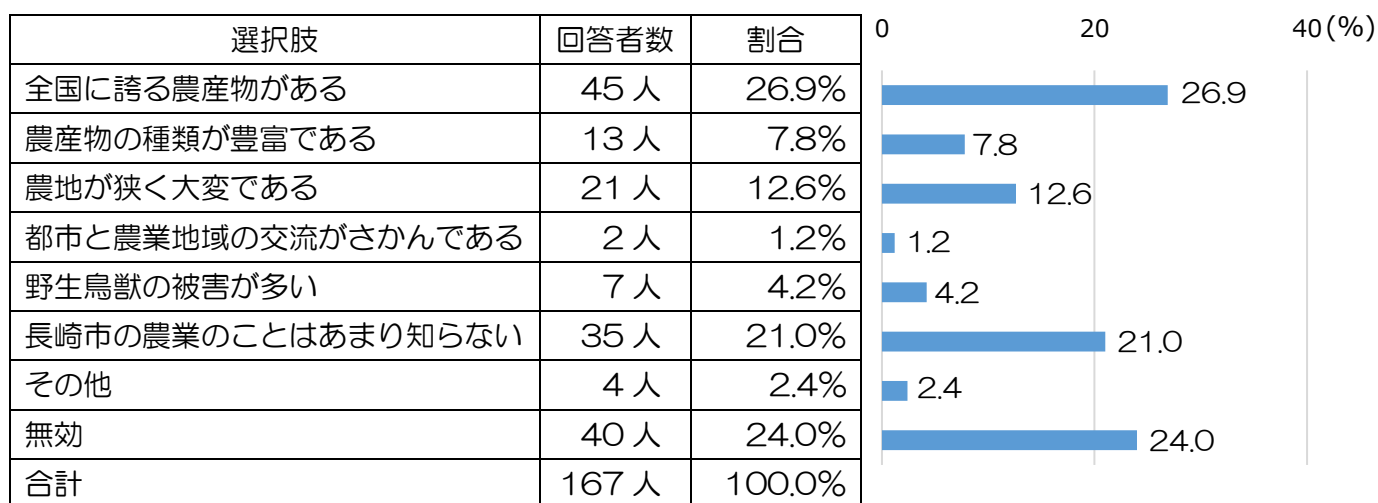
問3 お住まいの町名を教えてください。

選択肢	回答者数	割合
東部	41人	24.6%
西部	33人	19.8%
南部	53人	31.7%
北部	40人	24.0%
合計	167人	100.0%



※ ご記入いただいた町名をもとに、東西南北に分けて集計しています。

問4 長崎市の農業にどのようなイメージをお持ちですか。

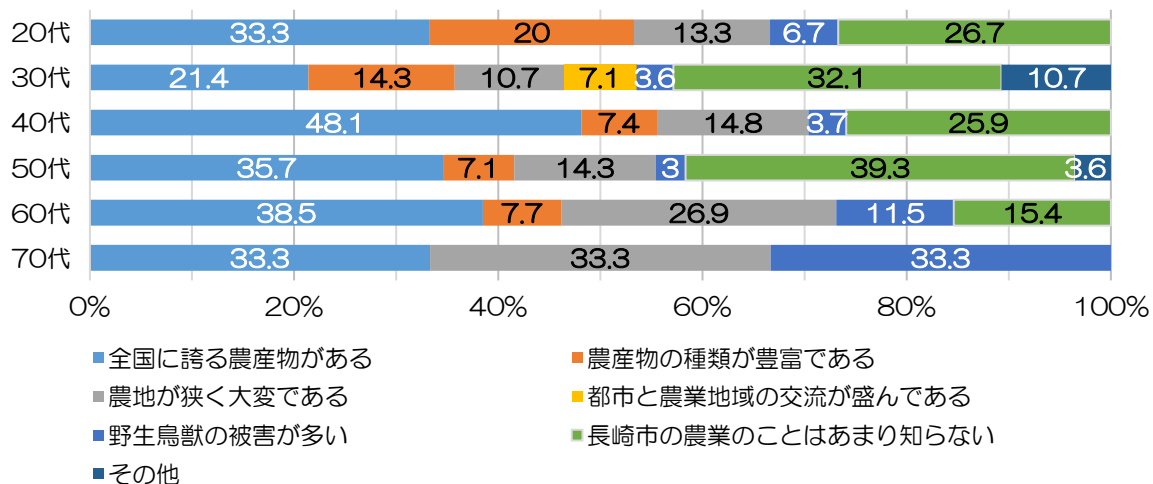


注) 択一式の設定であったため、複数選択していただいた回答は、無効としております。

【その他の主な意見】

- 耕作放棄地が多い。
- 高齢者が多く、若者が少ない。
- (規模が) 小さな農家が多い。

《長崎市の農業に対するイメージの年代別割合》

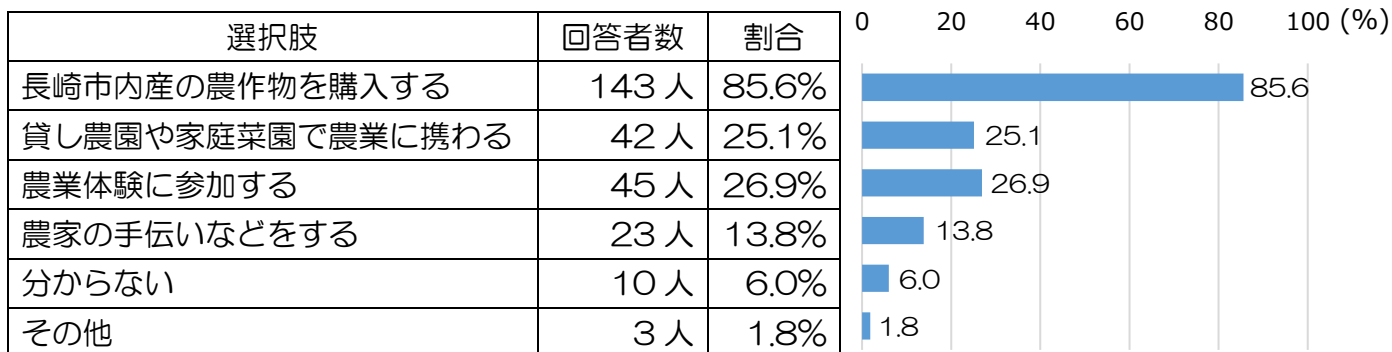


全ての年代において「全国に誇る農産物がある」との回答が高い割合を示しており、認識を持っていたことが分かりました。

一方で、長崎の農業について「あまり知らない」と回答したかたが、50代以下の年代においては平均して約30%を占めています。

また、長崎市内では、さまざまな農村交流イベントが開催されていますが、「都市と農業地域の交流」についてイメージをお持ちのかたは少なく、生産者と消費者の交流の強化を推進する必要性を感じさせる結果となりました。

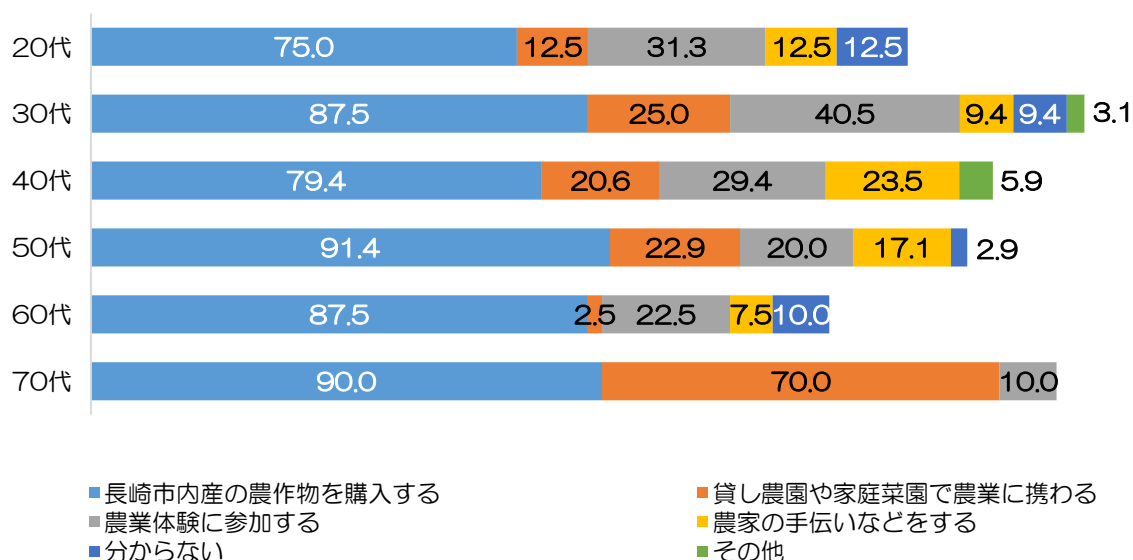
問5 長崎市の農業と関わりが持てると思うことは何ですか。（複数回答可）



【その他の意見（一部抜粋）】

- 家が農家なので、農業の手伝いをする。
- 長崎は身近に農地を見ることができ、子どもと話題にすることで、農業への理解を深める。

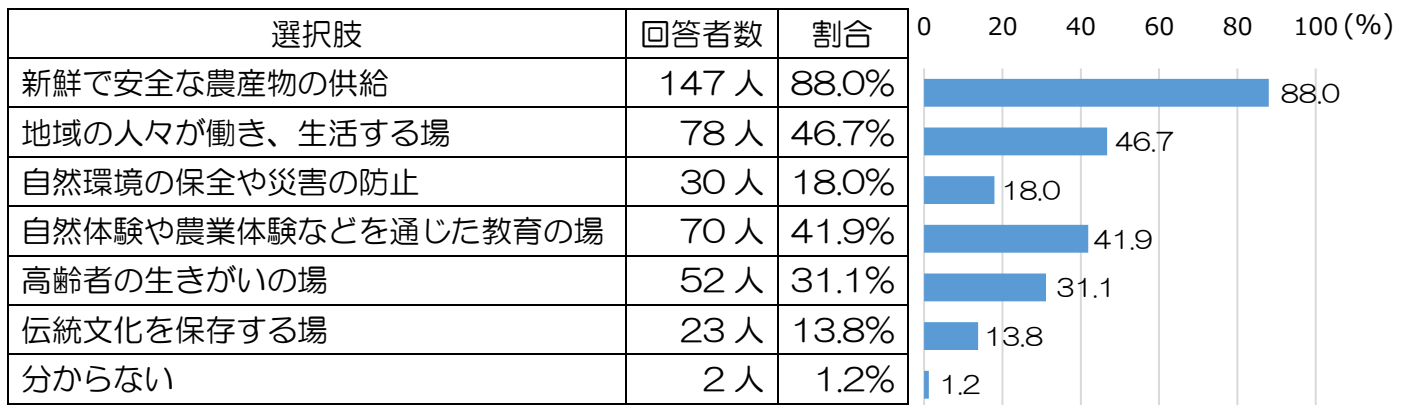
《農業と関わりが持てると思う活動の年代別割合（%）》



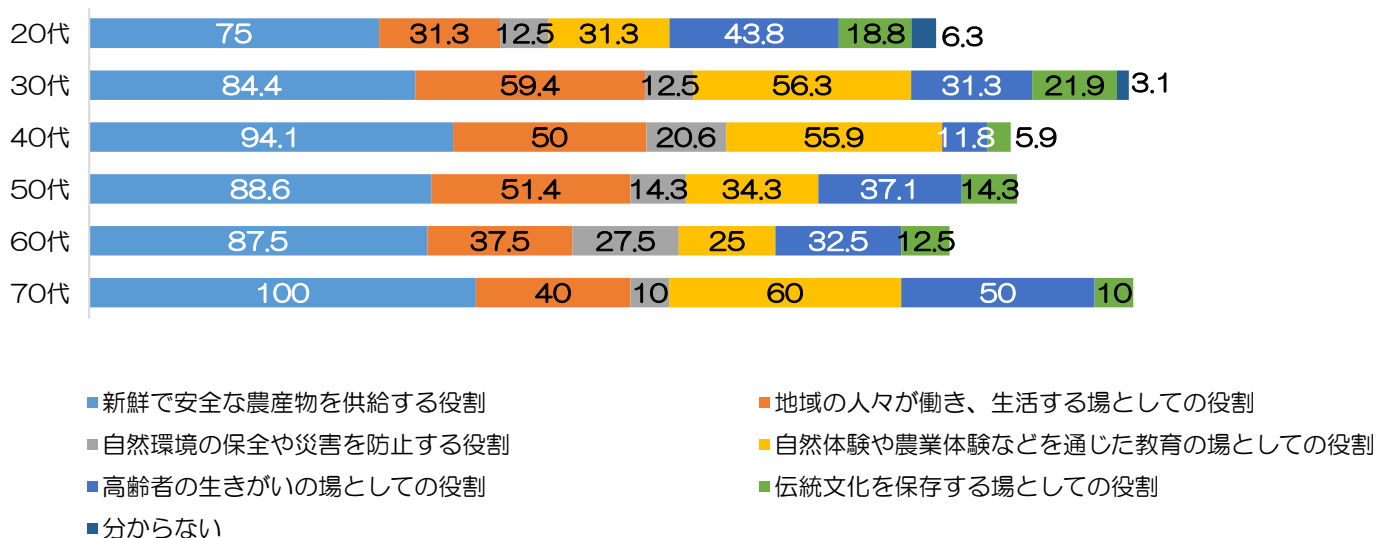
今回のアンケートに回答いただいたかたのうち、95%以上が、非農家のかたと思われ、消費者の立場から、市内産の農産物を購入することで農業に関わりを持つという意見が多く、地産地消に関する意識が高いことが分かりました。

また、70代では貸し農園や家庭菜園の実施と答えたかたが多かったのに対し、20～40代では農業体験に参加することにより農業への関わりが持てると考えるかたの割合が高くなっています。

問6 農業や農村が果たす役割として、何が重要だと思いますか。（複数回答可）



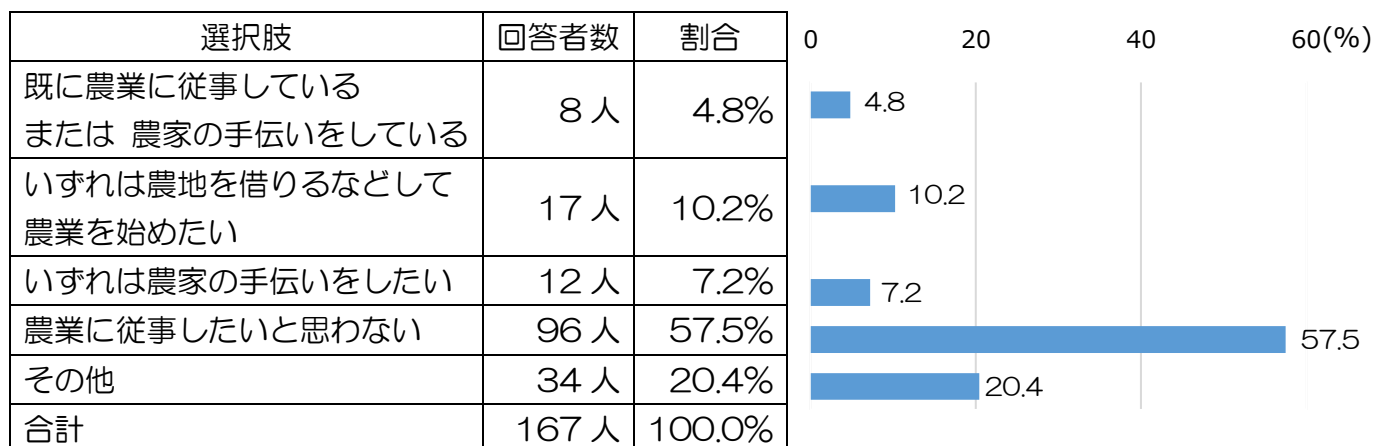
《農業や農村が果たす役割についての年代別割合（%）》



全ての年代において、「新鮮で安全な農産物を供給する役割」と回答したかたが70%以上を占めており、消費者の食に対する安全・安心のニーズはとて高いことが分かりました。

また、「体験を通じた教育の場としての役割」については、特に子育て世代である30~40代で高い割合を示しています。

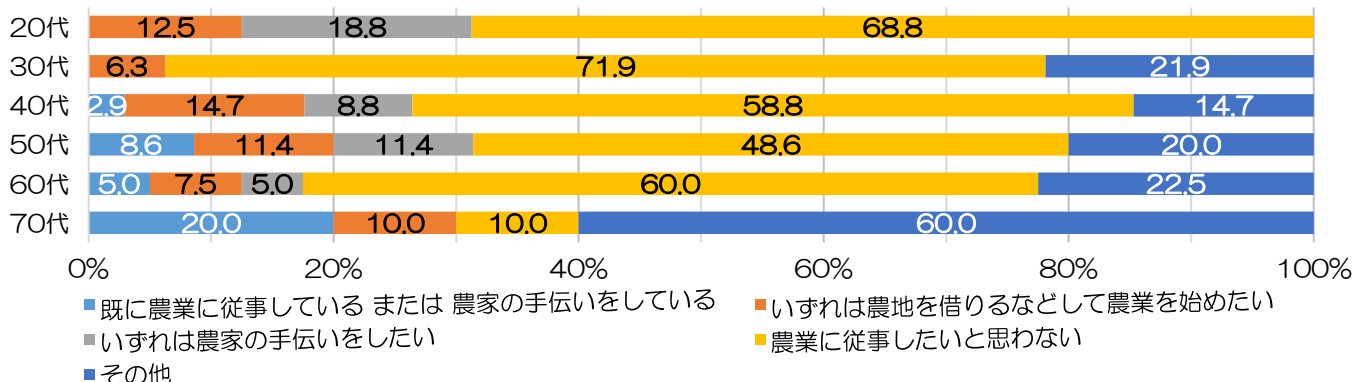
問7 農業に従事したいと思いませんか。



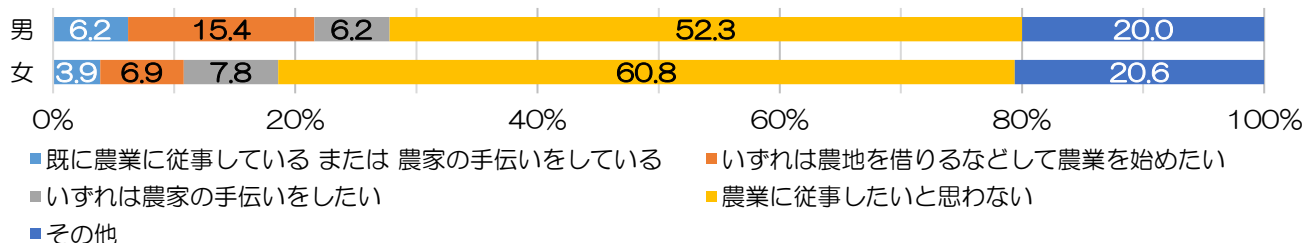
【その他の主な意見】

- 家庭菜園をしている、または始めたい。
- 農業に興味はあるが、(体力的、時間的) 余裕がない。
- 農業の大変さを知っているので、手伝い程度ならやりたい。

《農業に従事したいと考えるかたの年代別割合》

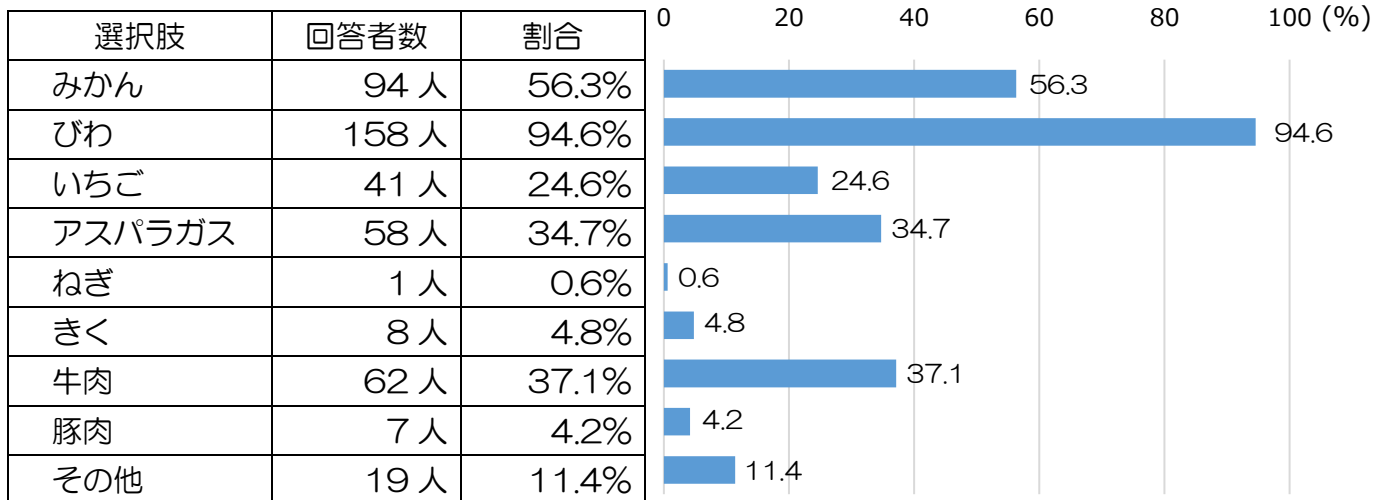


《農業に従事したいと考えるかたの男女別割合》



「農業に従事したいと思わない」と回答したかたの割合は、全体の半数を超えています。全ての世代において「農業を始めたい」と考えるかたは一定数いるものの、20～30代では農業に携わったことがあると回答した人はいませんでした。また、男女別の集計では、農業に携わっている・携わってみたいと考える女性の割合は、男性より約10%低くなっています。

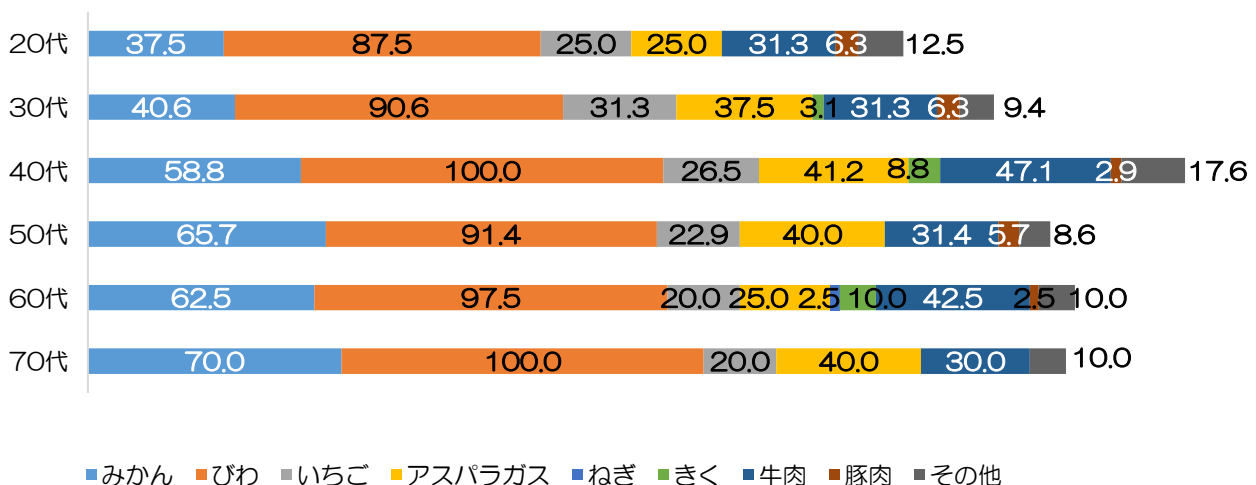
問8 長崎市には、全国に誇る農産物や畜産物の特産品があります。どのようなものが特産品だと思いますか。（複数回答可）



【その他の主な意見】

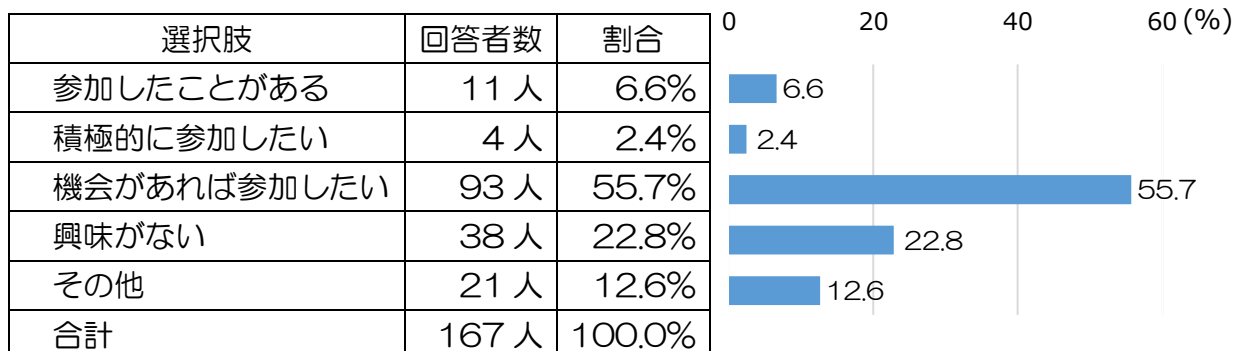
- ・トマト（高島トマト）
- ・ゆうこう
- ・じゃがいも

《長崎市の特産品 年代別割合（%）》



長崎市の特産農産物の認知については、びわ、みかんが高い割合を示しています。
 また、メディアやイベント等で露出が多い、いちごやアスパラガス、「長崎和牛・出島ばらいろ」は特産品としてのイメージが高いことが分かりました。
 また、各年代における特産品の認知について、共通のイメージを持っていることが分かりました。

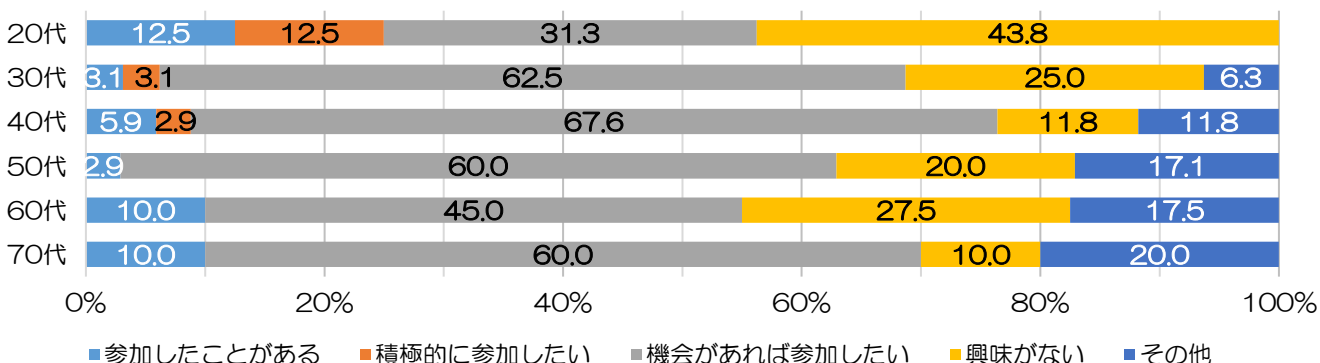
問9 農業の体験やツアーに参加したいと思いますか。



【その他の主な意見】

- ・参加してみたいが、体力的に困難。
- ・長崎市では、農業体験の宣伝が少ないように感じる。もっと企画してみたら面白いと思う。

《農業体験やツアーに参加したいと考えるかたの年代別割合》



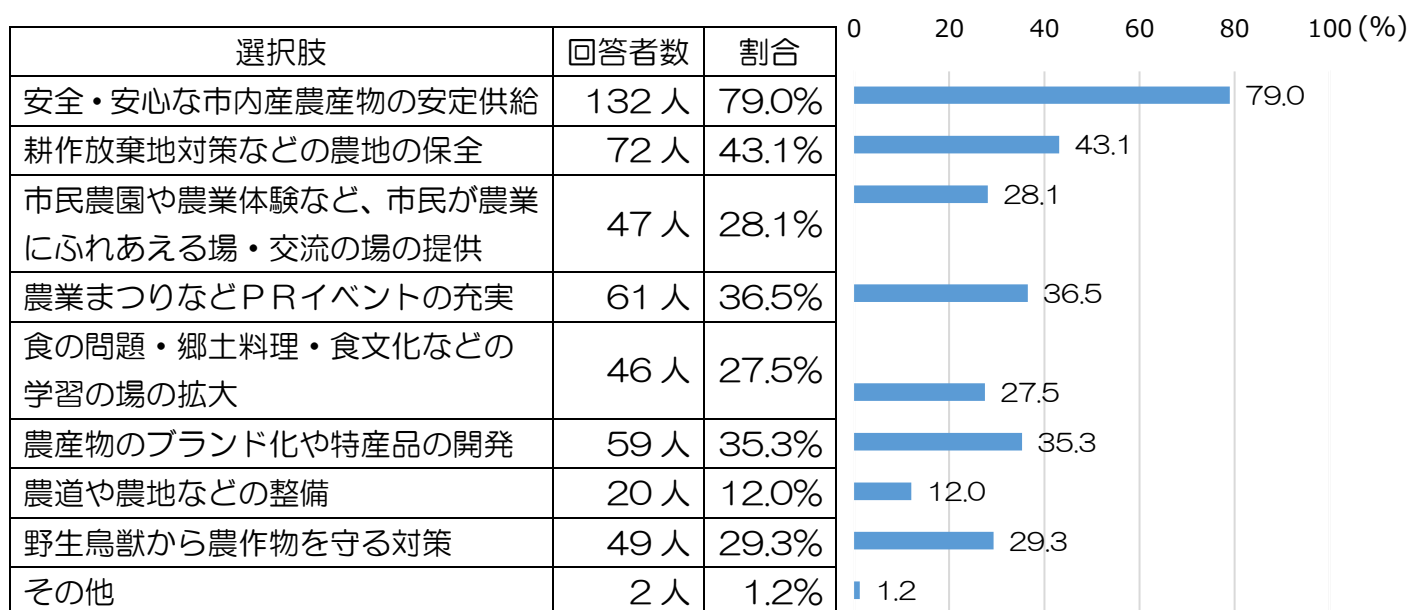
《農業体験やツアーに参加したいと考えるかたの男女別割合》



問7において農業に従事している・してみたいと回答した方の割合は、約20%と低い数値となったものの、問9の結果からは農業体験・ツアー等の参加に積極的な回答をしたかたは6割を超えており、今後のグリーンツーリズムへの多くのかたの参加が期待される結果となりました。

また、男女別の集計では、体験やツアーに既に参加したことのある女性の割合が、男性の約3倍となっています。

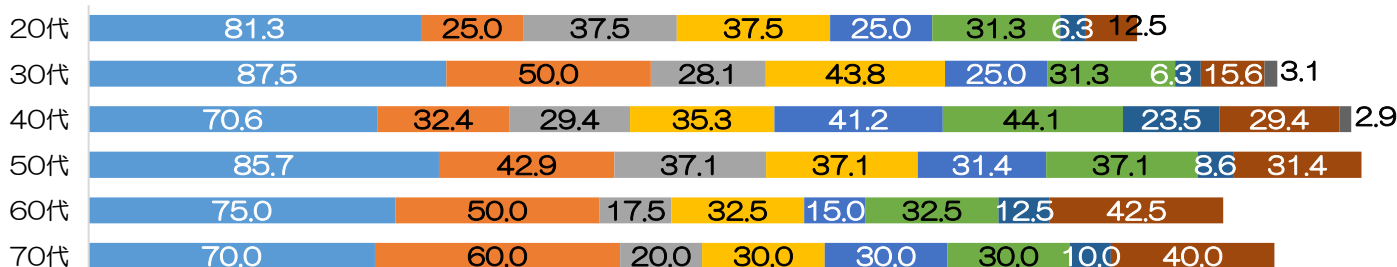
問 10 長崎市の農業施策に期待することはどんなことですか。(複数回答可)



【その他の主な意見】

- ・給食などでの地産地消の推進。

《長崎市の農業施策に期待する事項の年代別割合（％）》



- 安全・安心な市内産農産物の安定供給
- 耕作放棄地（現在使っていない荒れた農地）対策などの農地の保全
- 市民農園や農業体験など、市民が農業にふれあえる場・交流の場の提供
- 農業まつりなどPRイベントの充実
- 食の問題・郷土料理・食文化などの学習の場の拡大
- 農産物のブランド化や特産品の開発
- 農道や農地などの整備
- 野生鳥獣から農作物を守る対策
- その他

問 6 でも最も多かった、農業の役割である「安全・安心な市内農産物の安定供給」を発展・持続させる施策の実施が、一番求められていることが分かりました。

また、農産物のブランド化やPRイベントの充実といった経済面での施策、耕作放棄地や有害鳥獣問題への対策についても、行政が対応すべき課題であると、一般的に認識されていることが分かりました。